

地区防災計画作成の手引き

阿見町

目次

【地区防災計画作成の手引き】

はじめに	P2
地区防災計画ってなに?	P3
1. 「地区防災計画」作成の基本方針	P4
2. 作成に際しての留意事項	P5
3. 地区防災計画の作成行程	P6
4. 地区防災計画の見直し, 更新	P7
5. 地区防災計画の作成・運用に際しての町の支援	P7
6. 地区防災計画作成の手引きについて	P7

【地区防災計画(例)】

〇〇地区防災計画(例)	P8~P28
-------------------	--------

はじめに

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災や、令和元年東日本台風などの災害により、自分の身を自らの努力によって守る(自助)とともに、普段から顔を合わせている地域や近隣の人々が集まって、互いに協力し合いながら、防災活動に取り組むこと(共助)が必要であること認識されました。

阿見町においては、全 66 行政区に自主防災組織があり、地域の防災力を高めるため、防災訓練など様々な活動を行っています。

阿見町ではこういった「自助」・「共助」の動きをさらに盛り上げるため、地区ごとの防災・減災の決まりである「地区防災計画」を作り、地域防災力を向上させることを進めています。

この手引きは、地区の防災の担い手が、「地区防災計画」を作成する際に役立つことを期待したものです。地区での話し合いや共同作業を通して、地区に合わせた防災計画を作り、「自助」・「共助」の動きを一緒に盛り上げていきましょう。

☆地区防災計画ってなに？☆

「災害対策基本法」という法律に基づき、市町村内の一定の地区内の居住者が共同して行う防災訓練や、防災品の備蓄、お互いの支援などの防災活動を定めた計画のことです。

……難しいと思いませんか？でも、

☆ すべてを詰め込んだ計画を作る必要はありません。

「地区防災計画」……細かくて分厚い計画書を想像してしまいましたが、住民の皆さんが一緒になって取り組んだことであれば、危険な場所を示した「防災地図 1 枚だって立派な地区防災計画」です。

計画を作る過程を通じて、地区の活動を盛り上げることも目的の一つなのです。ワイワイ楽しみながら作って行きましょう。

☆ 他の地区防災計画を参考にしても大丈夫です。

インターネットで「地区防災計画」と検索すると、「地区の特徴を生かしましょう」や「オンリーワンを目指しましょう」と書かれた作成の手引きが見られます。

ですが、最初から個性的な計画を作ろうと思っても難しいと思います。

(できる地区はやってもらってももちろん大丈夫です)

悩んだら、他の地区防災計画を参考に、町の「地区防災計画(例)」をたたき台にするなど、自由にやっていただいて大丈夫です。活動を続けていくうちに、地区の特徴やオンリーワンな部分が見つかるはずですよ。

☆ 地区の住民と一緒に力をあわせれば。

最初に集まるのはいつもの人たちになるかもしれません。少しずつでいいので地区の防災の担い手を広げていきましょう。町の消防団や民生委員・児童委員さん、近くの商店や工場も同じ地区の住民です。住民の皆さんが取り組んだその結果が地区防災計画になります。

☆ 一から育てていきましょう。

初めて作った「地区防災計画」は、まだ植えたばかりの“種”の段階だと思います。せっかく植えたのですから、やがて種から芽吹き、立派な花になるよう計画を育てていきましょう。

※内閣府の「みんなでつくる地区防災計画」のライブラリはとても参考になります。

<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/chikubousai/chikubo/chikubo/index.html>



1. 「地区防災計画」作成の基本方針

(1) 地区住民による作成が基本になります。

地区防災計画は、その制作過程を通して、自発的な地区住民の「自助」や「共助」の動きを活性化させることにより、地域防災力の向上を図ることを目指します。

(2) 地区防災計画は地区の自主防災組織などが対象になります。

自主防災組織などは、単独の地区(行政区)及び自主防災組織、複数地区が連携した組織(小・中学校区など)です。

複数の地区(自主防災組織)が、一緒になって計画を作成することができます。

(3) 地区防災計画に決まった書式はありません。

① 地区防災計画は地区の特徴などに応じて作ることができるので、内容は自由形式となりますが、参考として標準的な内容例を記載した「阿見町地区防災計画(例)」を添付いたします。

② 地区防災計画の標準的、地区方針による選択的項目は以下のとおりです。

- ア 計画の名称
 - イ 活動の履歴
 - ウ 基本方針, 町の災害特性
 - エ 地区の特性
 - オ 防災の班体制・平常時の役割, 災害時の役割
 - カ 予想される災害, 地区の課題
- ※「ア～カ」は標準的な項目になります。

- キ 防災地図
- ク 一次(待機・避難)施設の情報
- ケ 防災備蓄品・購入計画
- コ コミュニティタイムライン
- サ 年間活動計画

※「キ～サ」は地区の方針により盛り込むことを推奨する内容になります。

※当初からすべて入れる必要は無く、計画の更新に合わせ追加していくことを検討してください。

シ 町提供の資料

※資料及び町公共施設・消火栓等の地図データについては、町から提供いたします。

2. 作成に際して留意事項

(1)参加者を募るとき時には。

色々な世代・集団の人に声をかけてみましょう。特に女性からの視点があると内容や活動が一層充実します。多様な主体や世代の参加のもとで計画を作成しましょう。

(2)「自助」,「共助」の仕組みを作りましょう

地区の住民が自ら、またはお互いに連携・協力して(自助・共助),地区の防災力を向上するための仕組みを作りましょう。

(3)災害時に役立つ計画を作りましょう。

次の視点を踏まえた「適切な情報」の収集・発信と「適切な行動」の実践につながる計画としましょう。

① 災害を知りましょう

自分が住んでいる地区で起こり得る災害について、前兆や避難の方法を確認しましょう。また、過去にあった災害を知ることは、とても有益です。(町防災危機管理課にぜひ問い合わせてください)

② 地区を知りましょう

災害危険箇所や脆弱な施設などを把握した上で防災地図を作成し、要配慮者(避難行動要支援者)対策や避難する場所までの経路や連絡体制を決めましょう。また、防災備蓄・食料の棚卸しをすることで、災害に対して今何が足りないのかが分かります。

③ 知識・経験を活かしましょう

自主防災組織などの活動で得た、防災・減災対策の知識や経験を活かし、災害時に実行しましょう。

また、防災訓練などは、地区全体で経験を積む絶好の機会です。

(どのような訓練がおすすめかは、町防災危機管理課にお問い合わせください)

(4)計画の作成スケジュールについて

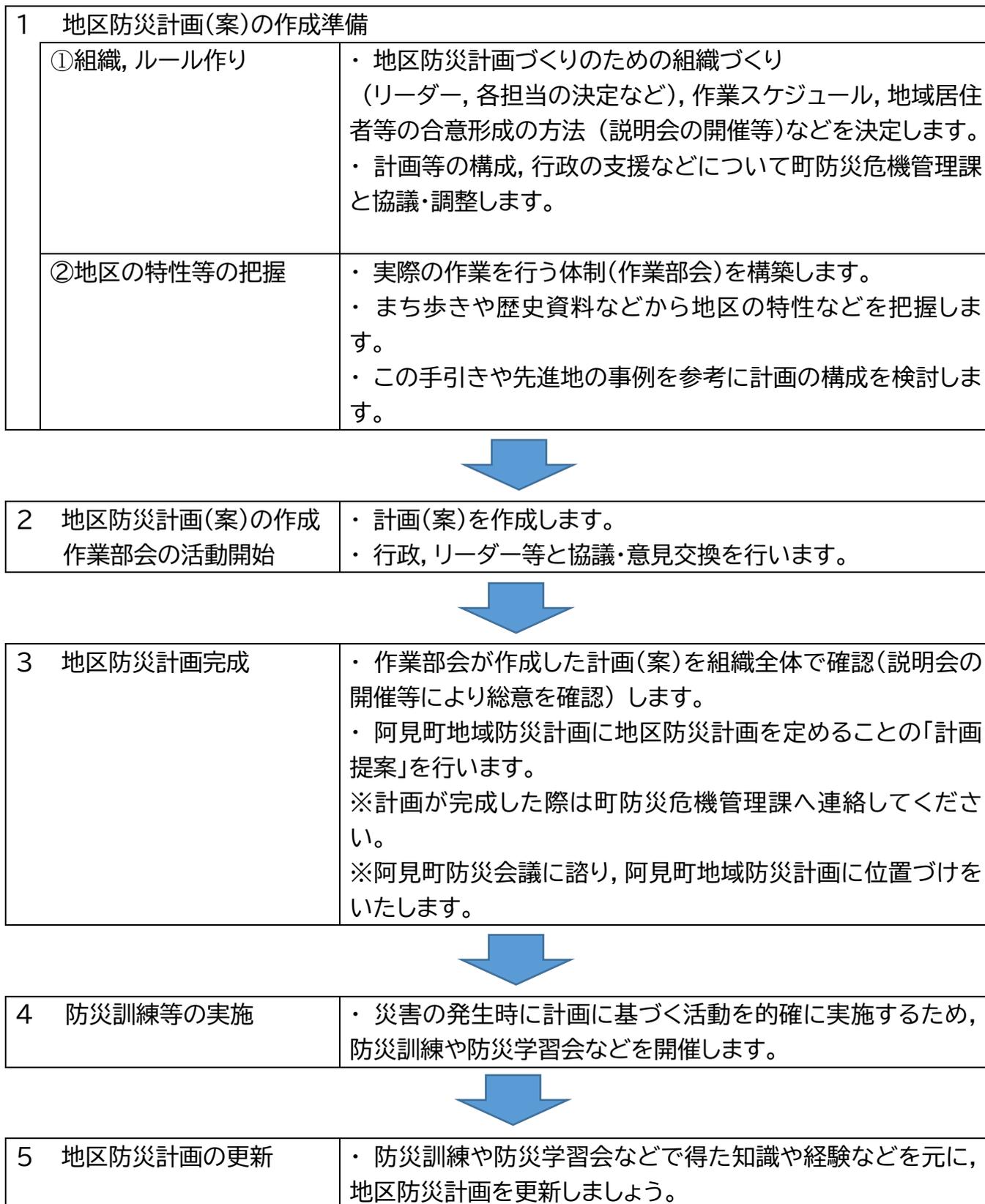
計画を作成するための、作成行程(スケジュール)をつくりましょう。

※「3. 地区防災計画の作成行程」について○ページを参照

(5)行政, 防災士(防災アドバイザー)など有識者からの参考意見

行政の出前講座や防災アドバイザーなど有識者からの意見も活用しながら計画を作成しましょう。

3. 地区防災計画の作成行程



4. 地区防災計画の見直し, 更新

(1) 計画の見直し

計画は, 防災訓練での反省や, 防災学習会などで得た知識などをもとに, 社会情勢の変化などに応じて見直していきましょう。

5. 地区防災計画の作成・運用に際しての町の支援

地区防災計画などの作成及び計画に基づく地区の防災訓練などの実施への支援を行います。

(1) 地区防災計画, 防災マップの作成支援

- ・地区防災計画, 防災マップ作成に必要な助言等を行います。
- ・地区防災計画ワークショップを実施しています。

(2) 防災学習会などの開催支援

① 出前講座

地区や自主防災組織などが開催する防災学習会などに町職員や防災アドバイザーなど有識者を派遣します。

(3) 地区の防災訓練の実施などの支援

① 有識者の派遣

地区の防災訓練の実施に町職員や防災アドバイザーなど有識者を派遣し, 訓練の進行などについてアドバイスを行うとともに, 地区と行政との連携についても協力します。

② 防災資機材の貸与, 消費期限間近の防災備蓄食料の配布

町は, 地区や自主防災組織などが行う防災訓練, 防災学習会の実施に当たって, 保有する防災備品の貸与や, 消費期限間近の防災備蓄食料を配布いたします。

(町が保有する防災備品等については○ページに添付します。参考にしてください。)

6. 地区防災計画作成の手引き(本書)の見直し, 更新

本書についても, 新たな防災・減災手法の研究, 社会情勢の変化, さらなる地区への支援などにより, 随時見直しと更新を行ってまいります。

この計画の の部分に地域の情報を記入し、計画を作成しましょう。

〇〇地区防災計画



<令和〇年〇月〇日 作成>

作成行政区, 作成日を記載します。
改訂した時は改訂日に修正します。

〇〇区

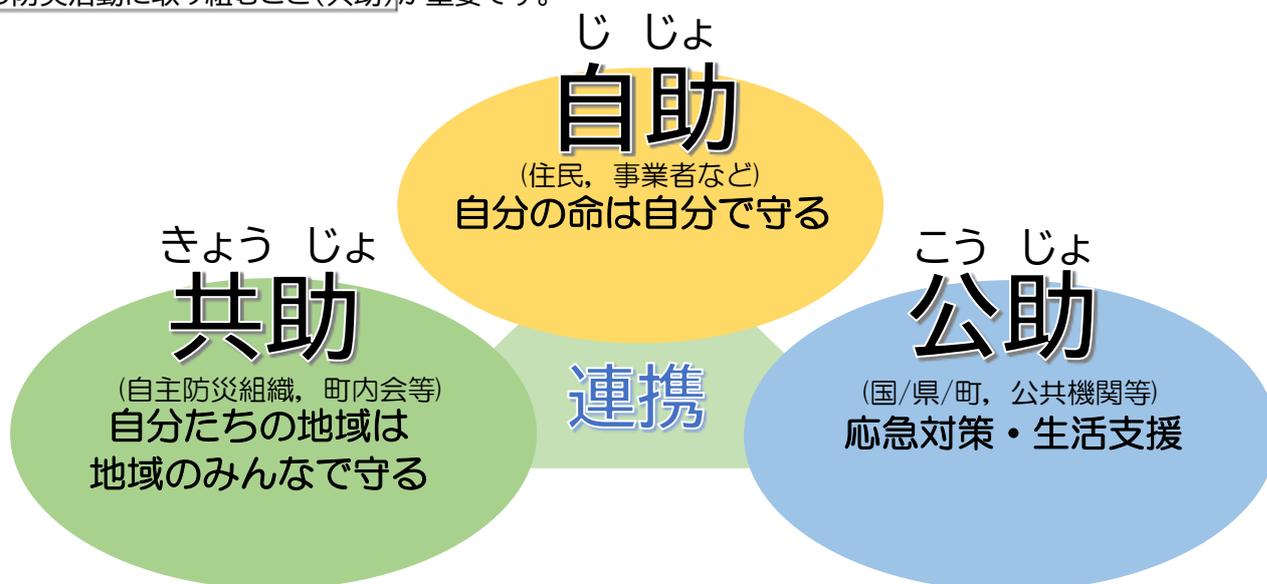
【自助・共助・公助とは】

災害への備えを考えると「自助」「共助」「公助」の3つに分けることができます。

「自助」とは、災害が発生したときに、まず自分自身の身の安全を守ることです。この中には家族も含まれます。「共助」とは、地区や周囲の人たちが協力して助け合いをすることをいいます。そして、町や消防、県や警察、自衛隊といった公的機関による救助・援助が「公助」となります。

大規模な災害への備えや、災害が発生した場合の救助活動等は、「公助」だけでは限界があります。

被害を減らすためには、自分の身を自分の努力で守る(自助)や、地域の人々が集まって互いに協力し合いながら防災活動に取り組むこと(共助)が重要です。



【阿見町の災害特性】～茨城県地震被害想定結果を受けて～

茨城県では 2018 年 12 月、地震被害想定調査の結果を公開しました。阿見町において予測される一番大きな地震(茨城県南部地震)で想定される被害は、下記のように算出されています。

表 茨城県南部の地震が発生した場合に想定される阿見町の被害

最大震度	震度6弱	
建物被害	全壊・焼失棟数	67～73 棟
	半壊棟数	755 棟
人的被害	死者数	2～4 人
	負傷者数	75～107 人
避難者数	(被災当日)	2,237～2,248 人
ライフライン(直後)	電力(停電率)	90%
	上水道(断水率)	95%

茨城県南部地震は、いわゆる首都直下地震の一種であり、その発生確率は **70%**といわれています。

阿見町では、上記の地震以外にも、風水害対策の一環として、洪水ハザードマップ及び土砂災害ハザードマップを作成・公開しています。詳しくは、町役場・町ホームページを確認してください。

上記は、阿見町側で作成した一例になります。記載内容は決まっておりませんが、計画を作成するにあたり、地区として大切にしたいことなどを記載してください。

1. ○○地区の特性

自然環境や道路等, 特徴のある環境を書いてみましょう。

(1) 地形

- ・○○区は町の西側に位置しており～起伏のない平らな土地で～南側に○○川を有している。
- ・国道125号線バイパスが地区の中央部を走っている。

阿見町 HP から住民基本台帳の行政区別人口が見られます。

(2) 世帯数・人数(年 月現在)

人口	世帯数
約○人	世帯○戸

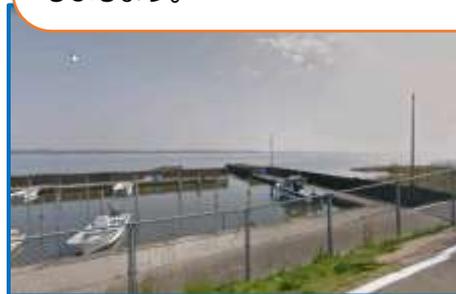
(3) 災害警戒区域等

災害種類	場所	人口・世帯数
土砂災害警戒区域(イエローゾーン)	なし	なし
土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)	なし	なし
浸水想定区域	霞ヶ浦	6人・3世帯
その他(自然崖)	○○	

町ハザードマップから地区に災害警戒区域が無いか探しましょう。その他には, 他に気になる場所を追記しましょう。



地図



霞ヶ浦沿岸



国道○○○号線・交差点

共有したい場所の写真を載せてみましょう。

具体的な役割について記載してみましよう。

2. 防災活動の体制

役職・班名 【担当者名】	平常時の役割	災害時の役割
代表 【 】	総括	指揮・意思決定
副代表 【 】	代表の補佐	代表の補佐
情報班 【班長： 】 【 】	情報の収集・共有・伝達	情報の収集・共有・伝達
消火班 【班長： 】 【 】	器具点検, 初期消火訓練	初期消火活動
救出・救助班 【班長： 】 【 】	資機材調達・整備	負傷者の救出, 救護活動
避難誘導班 【班長： 】 【 】	避難路, 避難施設の確認	住民の避難誘導活動
給食・給水班 【班長： 】 【 】	給食資機材や備蓄物資の 整備・点検	炊き出し等の給食・給水 活動
環境班 【班長： 】 【 】	トイレ・ごみ集積場の点検	トイレ・ごみの衛生管理

平常時・災害時の防災活動班として、区の実情に合わせて書いて見ましよう。
※自主防災組織で班を決めている場合、同じ体制にしても構いません。

3. 予想される災害

災害時の防災活動班として、区の実情に合わせて書いてみましょう。

(1) 予想される災害

- 地震
- 内水氾濫(側溝から水が溢れる)
- 土砂崩れ

《参考》町ハザードマップや過去の災害情報を元に記載しましょう。

(2) 地区の強み

- 井戸を持っている世帯が多い
- 各班別に行動を計画している

《参考》地域に商業施設や建設会社がある, なども強みととらえましょう。他には消防・警察・自衛隊OBが多いなど。

(3) 地区の弱み

- 災害警戒区域ではないが, 自然崖がある(2 か所)
- 町の指定避難所まで遠い
- 防災資材の揃えが少ない

《参考》他にも,
・空き家が多い
・昼間の人口が少ない(サラリーマンが多い)
etc…

〇〇地区の課題

【強みをさらに伸ばすためには】

現在の活動体制を強化する
設備・資機材・備蓄品の更新
非常用発電機を購入する

【弱みを克服するためには】

防災倉庫を新しく置く
防災訓練の参加者を増やす
危険が予測される世帯への連絡網を構築する

「地区の課題」というのは、地区防災計画を成長させる“栄養”になります。課題を乗り越え、種から芽吹くよう計画を育てていきましょう。



4. 地区の防災地図



4. 一時(待機・避難)施設の情報



地区の拠点となる公会堂等の写真を貼り付けてみましょう。

施設名称	住所	電話番号	FAX 番号	備考
〇〇公会堂	〇〇-〇	888-XXXX	なし	

駐車(輪)場

- ・ 普通車:〇台 ・大型車:不可 ・自転車, バイク:可

部屋数

- ・ 3 部屋

設備

- ・ 電気, 上下水道, プロパンガス

滞在人数

- ・ ~20 人(宿泊 6 名まで可)

その他

- ・ 車いす対応。敷地内に防災無線屋外スピーカーと防災倉庫有り

施設内にある備品を整理し, 今ある備品で一時待機・避難所として開設できるか確認してみましょう。

施設内の備品(防災用問わず)

種類(品名)	個数	単位	備考
折り畳みテーブル	3	台	3 人掛け
毛布	6	枚	災害用
イス	6	脚	パイプイス
調理器具	1	式	
座布団	20	枚	
ラジオ	1	台	
テレビ	1	台	
戸別受信機	1	台	
エアコン	1	台	10 畳用
湯沸かしポット	2	台	
スロープ(出入り口用)	1	台	車いす用

4. 防災備蓄について

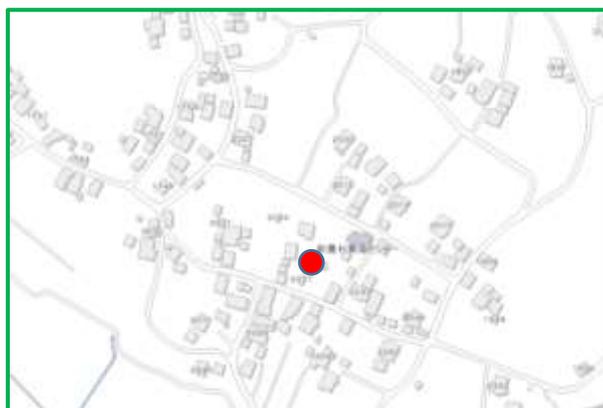
〇〇地区防災(資機材)倉庫 ※定期的に防災資機材・備蓄品の棚卸しを行いましょ

保有防災備蓄品・資機材 一覧表

区分	品名	数量	単位	備考(点検時期など)
日用品	カセットコンロ	2	台	防災訓練炊き出し時に使用
	カセットガス	8	本	
	ろうそく	50	本	LEDランタンに入替予定
	毛布	10	枚	
救出救助	油圧ジャッキ	1	台	防災訓練前に点検(年に一度)
	はしご	1	脚	折り畳み式3m
	ボール(金てこ)	1	本	
	救急セット	1	式	年に一度入れ替える
	発電機	1	台	防災訓練前に点検。予備ガソリン缶(10L)あり

保有防災備蓄食料 一覧表 (原則、賞味期限の3か月前に配布します) R4.〇現在

区分	品名	数量	単位	備考(補充時期など)
食糧	アルファ米	100	個	期限が近いものは防災訓練時に配布
	缶入り長期保存パン	50	個	//
	缶詰(焼き鳥)	30	缶	//
水	5年長期保管水	50	本	//
その他				



● 防災倉庫の場所

公会堂等から倉庫が離れている場合は、位置を記載してみましょ



防災倉庫(外観)

〇〇地区防災資機材・備蓄食品整備計画

※今後、〇〇地区に必要な資機材・備品のリストになります。

今後そろえる防災資機材

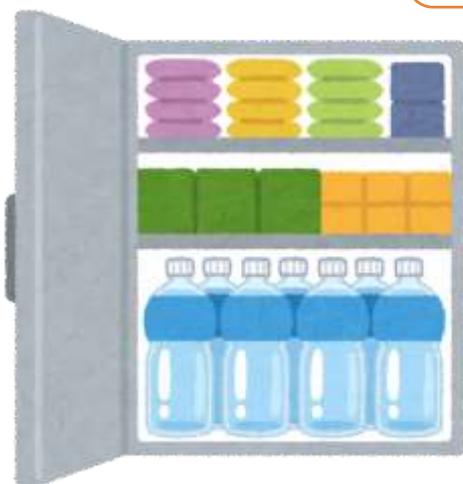
区分	品名	数量	単位	備考
日用品	携帯トイレ	20	個	年一度、防災訓練で使用する
	ルームテント	5	張	公会堂への避難宿泊時に使用
	ポータブルバッテリー	1	台	携帯電話等への充電用(大容量)
救出救助	ヘルメット	10	個	公会堂に置く(役員用)

地区の強み・弱みを考慮にいて、今後揃えたい資機材を記入しましょう

今後そろえる防災備蓄食料

区分	品名	数量	単位	備考
食糧	栄養補助食品	適量		ようかん、ゼリー系飲料 (保存期間が長いもの)
	クラッカー	50	個	

足りないものを補うように購入計画を立てて記入しましょう



4-1. コミュニティタイムライン(地震・突発災害)

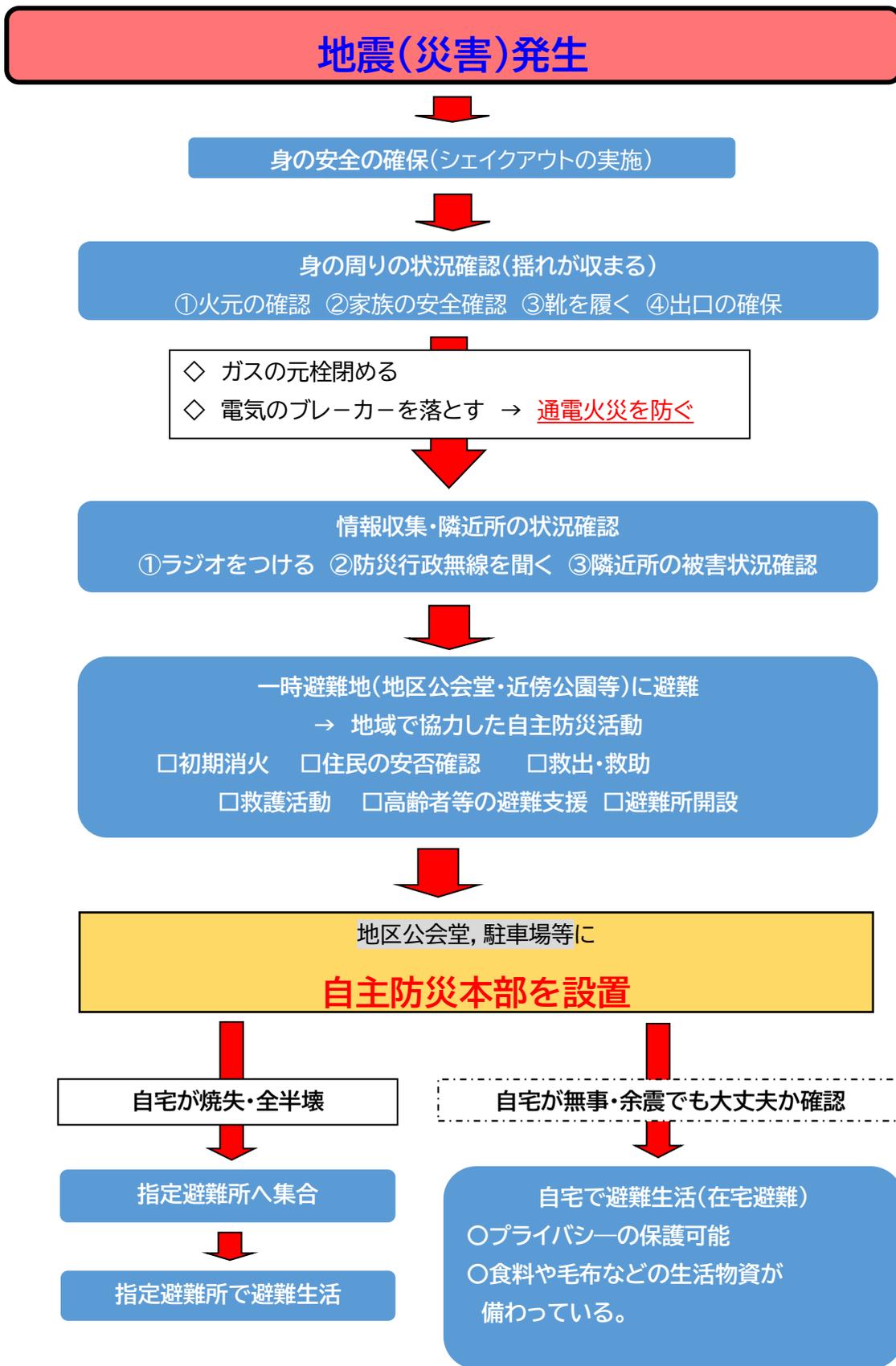
班名	発災直後～数時間	発災当日～ 3日程度	3日～ 1週間程度	1週間以降
本部長	<ul style="list-style-type: none"> ○自主防災活動の指揮 ○災害対策本部の運営 			
副本部長	<ul style="list-style-type: none"> ○本部長の補佐 			
情報班	<ul style="list-style-type: none"> ○地区の被害状況の把握・伝達 			
消火班	<ul style="list-style-type: none"> ○出火場所の確認 ○消防署への連絡 			
救出・救助班	<ul style="list-style-type: none"> ○要救出者の確認 			
避難誘導班	<ul style="list-style-type: none"> ○重傷者・中等症者の搬送 ○軽症者の応急処置 			
給食・給水班	<ul style="list-style-type: none"> ○防災倉庫・食料備蓄品の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○配布準備・配布 		
防犯・安全班		<ul style="list-style-type: none"> ○地区内安全点検 ○防犯パトロール 		
環境班		<ul style="list-style-type: none"> ○し尿処理対策 ○ごみ収集処分 		

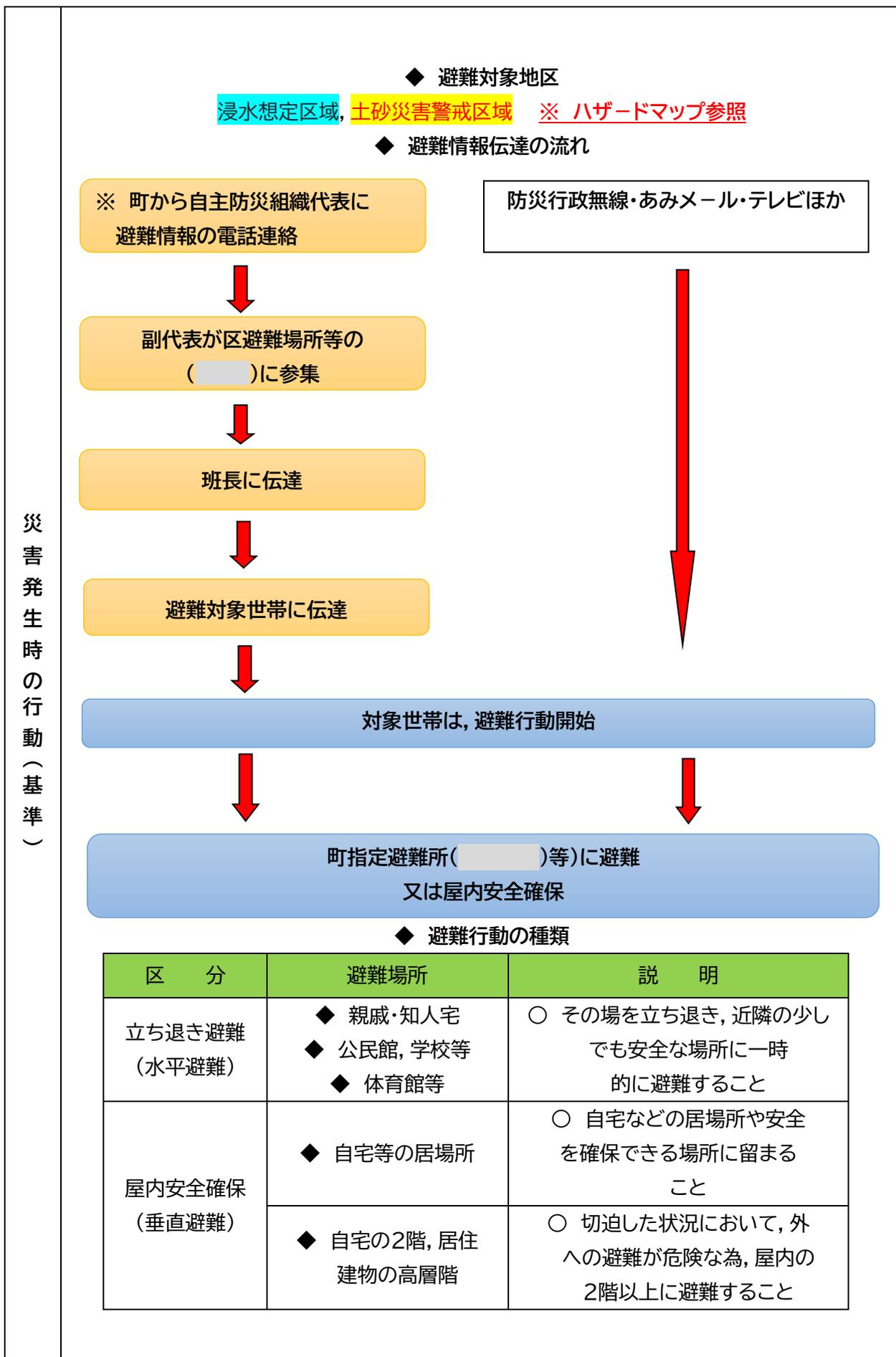
班ごとの動きを、時系列で記載してみましょう。

どの班がこういった内容を行うのか、協議してみましょう。

4-2. コミュニティタイムライン(地震:突発型)

災害発生時の行動(基準)





5. 年間活動計画

防災活動の実行性を高めるため、年間の活動計画を立てて実践していきましょう。

年	月	〇〇区スケジュール	防災活動スケジュール
年	4月	役員会(総会)	防災に関する意見交換
	5月		
	6月		
	7月	役員会	
	8月	地区夏まつり 役員会	
	9月		防災訓練
	10月		防災備蓄品棚おろし
	11月	役員会	
	12月	歳末夜回り	
年	1月		
	2月		
	3月	役員会	次年度防災活動スケジュール確定

資料1<補助金申請>

町では自主防災組織の活動育成を図るため、地区防災訓練の実施および資機材等の整備に要する費用の一部を補助しています。

補助区分と金額		
補助区分	内容	補助金額
防災訓練の実施	防災訓練の実施に要した費用(一行政区につき年1回)	費用の100%(限度額30,000円)
資機材の購入	防災倉庫や災害発生時に応急対策として使用する資機材等の購入に係る費用(前回の補助から10年以上経過していることが条件)	費用の50%(限度額150,000円)
申請手続き		
補助区分	申請方法	
防災訓練の実施 提出先:防災危機管理課	補助金交付申請書に次の書類を添付する。 ・防災訓練の実施に要した費用に係る領収書 ・防災訓練実施計画書	
資機材等の購入 提出先:防災危機管理課	補助金交付申請書に次の書類を添付する。 ・収支見積書 ・活動計画書	
対象となる資機材の例 ※レンタル・リースに係る費用は対象外となります。		
資機材の種類	内容	
情報連絡用	携帯用無線機・受令機・電池メガホン・携帯用ラジオ・腕章	
消火用	可搬式動力ポンプ・可搬式散水装置・防火水槽・ホース・スタンドパイプ・格納器具一式・街頭用消火器・防火衣・鳶口・ヘルメット・水バケツ・防火井戸	
水防用	救命ボート・ロープ・ツルハシ・防水シート・シャベル・救命胴衣・かけや	
救出救護用	AED・エンジンカッター・油圧式救命器具・可搬式ウインチ・テント・チェンブロック・チェーンソー・ジャッキ・バール・救急箱はしご・担架・防煙防塵マスク・毛布・簡易ベッド・のこぎり	
給食給水用	給水タンク・緊急用ろ水装置・飲料用水槽・炊飯装置	
避難所・避難用	リヤカー・発電機・警報器具・携帯用投光器・標識板・標旗・強力ライト・簡易トイレ・寝袋・組立式シャワー	
その他	簡易資機材倉庫	

資料2 <防災資機材の貸与, 備蓄の提供>

1 阿見町では災対害対策として, 計画的に防災資機材・備蓄食料を購入しております。

・防災訓練や, 資機材の取り扱い訓練等を行う際, 阿見町で備えている防災資機材を自主防災組織に貸与することで, 実践的な支援をいたします。

※防災資機材購入の参考にする用途でも貸与が出来ます。

(1) 貸与できる防災資機材等

災害対策	ガソリン発電機, ヘルメット, シャベル, 土のう, ブルーシート, エアーベッド(電動ポンプ付き), 部屋用簡易テント, 携帯用無線機,
感染症対策	非接触型体温計

(2) 貸与数 個別にご相談ください。

2 食品の有効利用の観点から, 今年度中に賞味期限切れとなる備蓄食料を啓発用として自主防災組織や学校, 各種団体に無償提供しています。

(1) 提供する食料 アルファ米, 缶詰パン, 保存水など

※年度により期限切れとなる食品が異なります。

(2) 提供数 個別にご相談ください。

食料により期限切れとなる期日が違いますので, ご了承ください。また, 在庫に限りがありますので, 先着順とさせていただきます。



資機材・食料について希望する場合は, 防災危機管理課(029-888-1111)までご連絡ください。

資料3 <我が家のタイムライン>

我が家のタイムラインを作成しよう

近年、台風などによる記録的な大雨が全国各地で相次ぎ、大規模な水害や土砂災害が発生しています。本県でも、平成27年9月関東・東北豪雨では約4,200人、令和元年東日本台風では約330人の方の避難が間に合わず、「逃げ遅れ」となってしまい、ヘリコプターなどで救助されるといった事態となりました。

こうしたことを防ぐため、平時のうちに、各家庭において逃げ遅れないためにやるべきことを確認しておく「我が家のタイムライン」を作成しておきましょう。

○ 作成方法

① 名前を記入しましょう。

② 洪水がおきた時の避難先を記入しましょう。
※避難先は市町村の避難所へ。
または、ハザードマップで色が塗られていない親戚・友人宅などが考えられます。

③ 避難先までの移動手段を記入しましょう。

④ 避難先までのおおよその移動時間を記入しましょう。

⑤ 避難するときに持っていくものを○で囲みましょう。

⑥ 避難するタイミングを決めて○で囲みましょう。
・【警戒レベル3】高齢者等避難
一緒に逃げる家族の中に、高齢者など避難に時間がかかる人がいる場合に選択。
・【警戒レベル4】避難指示
上記以外の場合に選択。

○ ハザードマップとは

ハザードマップとは、浸水や土砂災害の危険がある地域や災害発生時の避難先(指定避難所など)が示された地図のことで、浸水する可能性があるエリアに色が塗られています。ご自宅の場所が浸水する可能性があるかどうかをあらかじめ確認しておきましょう。

ハザードマップは、お住まいの市町村のホームページで確認するか、市町村の防災担当課へお問い合わせください。



ハザードマップは、以下の二次元コードから確認できます。



資料4 <非常品持ち出しリスト>

非常用品の持ち出しリスト

常時携行品

自宅以外で災害にあった時を想定した物品です。

番号	品名	確認☑	備考
1	笛・ホイッスル※		救助を求める時に自分の位置を知らせる。防犯用にも◎
2	懐中電灯※※		手のひらサイズでもLED電球であれば十分明るくなります。
3	携帯ラジオ(AM・FM)イヤホン付き※		情報収集用。気分転換にも。
4	モバイルバッテリー・ケーブル		避難先でスマホの充電ができないときに。
5	常備薬		
6	手ぬぐい		替えのマスク、三角巾、包帯の替わりに。

※「笛・ホイッスル」、「携帯ラジオ」、これらはスマホアプリでも代用が出来ます。
 ※※懐中電灯はスマホのライトでも代用できます。

1次持ち出し品

避難時にすぐに持ち出すべき、必要最低限の備えで被災時・非常時の最初の1日間をしのぐ為の物品です。非常用持出袋に入れ、玄関など持ち出しやすい場所においておきましょう。

番号	品名	☑	備考
1	非常持ち出し袋		手がふさがらないリュックタイプがおすすめです。
2	マルチツール		はさみ、ペンチ、缶切りなどがあると便利。ナイフは取扱注意。
3	飲料水		一人1日2ℓ～3ℓの水が必要とされています。
4	非常食		最初の1日間を乗り切れるだけのものを。
5	救急セット		
6	耳栓		休憩や仮眠、就寝時に。
7	健康保険証・運転免許証		身分証明にもなります。
8	手袋(軍手、革手袋)		防寒や、作業を手伝う場合にも。
9	スリッパ		外履きでそのまま入れない避難所用に。
10	ビニール袋		外履き入れやごみ入れに。
11	女性用品		生理用品・鏡・ブラシなど。

2次持ち出し品

災害復旧までの数日間(最低3日間)を自足できるよう準備しておく物品です。避難する場合は災害後に取りに行けるよう、倉庫や車のトランクなどに分けて備蓄しておくとう便利です。また、自宅で避難生活を送る上でも必要なものです。

番号	品名	☑	備考
1	飲料水		一人1日2ℓ～3ℓの水が必要とされています。
2	非常用給水袋		給水所で水を蓄えて、運ぶことができます。
3	食料(3日間程度の量)		アルファ米、ドライフーズ、マルチビタミン錠、お菓子。
4	衣類		上着・下着・靴下など。
5	毛布		
6	雨具		寒い場合は衣服の上に着ると防寒になります。
7	卓上コンロ、カセットボンベ		停電時や寒い時期に温かい食品を。
8	鍋		
9	紙の食器		ラップにくるんで使えば洗う必要がありません。

私だけの持ち出し品

自由に書いてね!

番号	品名	☑	備考
1			
2			
3			
4			



資料5 <情報収集について>

あみメール

防災行政無線の内容や行政情報等を
文章で送信します。



緊急速報メール・エリアメール

各社の携帯電話利用者に対して、一斉に災害・避難情報を配
信するサービスです。受信料や月額使用料は無料です。



防災行政無線フリーダイヤル

聞きづらい、聞こえないときは
防災行政無線フリーダイヤルへ

☎0120-131-813

阿見町ハザードマップ



- ・洪水
- ・土砂災害
- ・地震
- ・液状化



阿見町ホームページより

<https://www.town.ami.lg.jp/0000007828.html>

スマートフォンアプリ

Yahoo!防災速報



iOS・Android
QRコード



気象庁:防災情報:キキクル

<https://www.jma.go.jp/bosai/>

QRコードを読み取ると「阿見町」の
防災情報が表示されます。



〇〇地区防災計画